

■ 人権啓発推進映像教材 ■
職場の力を育む人権シリーズ

聴く力

～ 相手を想う 傾聴コミュニケーション ～

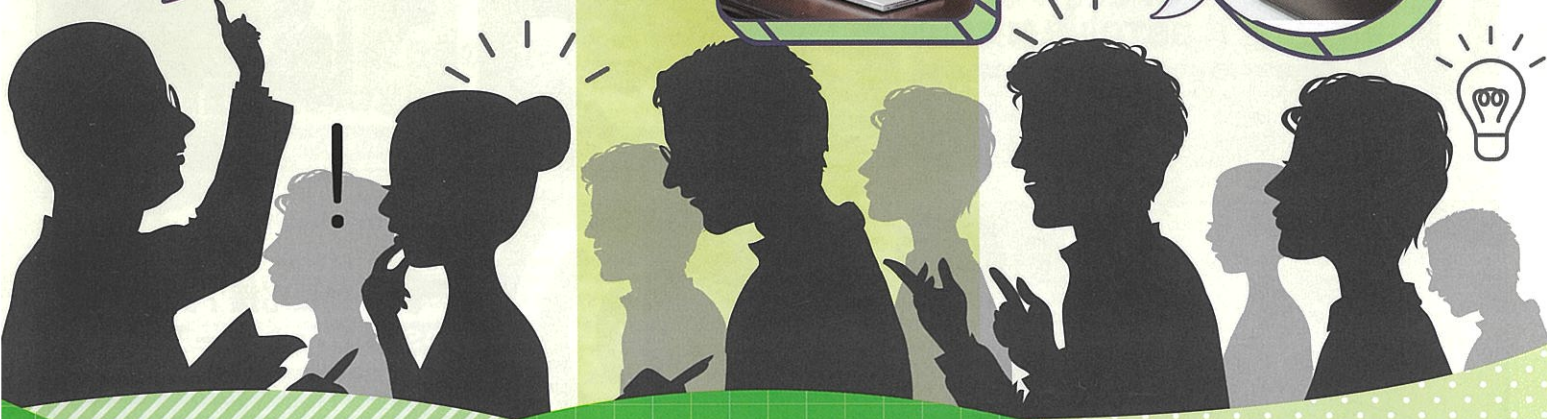
合理的配慮?!



アンコンシャス・バイアス!



レイシャルハラスメント?!



解説書・ワークシートあり

字幕・副音声版付き

DVD本体価格 70,000円 (税込77,000円)



東映株式会社 教育映像部

上映時間 23分

[C#3147]

予告編はコチラ



社内ネットワークによるeラーニングなどでお使いいただけるデータ販売も行っております



■ 人権啓発推進映像教材 ■
職場の力を育む人権シリーズ

聴く力

～相手を想う 傾聴コミュニケーション～



企画内容

職場では、多様な背景を持つ従業員が共に働き、さまざまな人権課題が存在しています。本教材では、「障害者」「外国人」「LGBTQ+」「部落差別」「ジェンダー」といった人権課題をテーマに、異なる想いや悩みを抱える人々に気づき、相手の声に耳を傾けることの重要性を示します。自身の言動が誰かを傷つけないために、働く仲間の互いを尊重し、相手の心の声を聴くこと。職場における「聴く力」を育むことをめざしたドラマ形式の映像教材です。

あらすじ

従業員と直接接する場が持ていないと思った社長の高野涼子は、社長だとはばれないように変装して社内の様子を探ることにする。悩みを抱える従業員の話を聞き、周りに気づきを与えることで、従業員同士が他者の声に耳を傾けることができるようになる。

1

それって合理的配慮？

CASE 【障害者】

車椅子ユーザーの古川和乎は、管理職にもかかわらず席を端の方にされていた。上司の岡田香織は、出入りの負担を減らせば仕事がしやすくなると、配慮したつもりであったが、それは古川の希望とは異なるものであった。



2

配慮じゃなくて、排除？

CASE 【外国人】

座敷の店で正座が必要だからと接待業務を外され、会議では「日本人とは違う切り口が欲しい」と上司に言われたジョセリン・スミスは、配慮のつもりでも排除されたように感じ、外国人扱いされることに思い悩んでいた。



3

見えないことと、いないことは違う

CASE 【LGBTQ+ & 部落差別】

取引先の担当者が同性愛者であると噂をする部員たち。その話を横で聞いていた上司の中村敦は、問題があると認識しながら「ここだけの話にしてくれよ」と、アウティング行為に対して適切な指導をしなかった。



4

女性応援？女性活躍？

CASE 【ジェンダー】

採用ページの福利厚生欄に「女性応援・女性活躍」の表記を追加するように提案した社長だったが、人事部の菅原弘人から「育児は女性がするもの」という刷り込み、つまりアンコンシャス・バイアスになりかねないと指摘を受ける。



他にも幅広い商品ラインナップを取り揃えております！



ドラマスタ
DRAMATIC STUDY



- メリット 01 欲しいテーマを1作品から
- メリット 02 選べる納品形式！
- メリット 03 高品質なドラマ作品で研修効率アップ！
- メリット 04 幅広いラインナップと信頼の実績！